

古典籍資料デジタル化の概況

国立国会図書館利用者サービス部人文課長
鈴木 昭博

はじめに

当館には古典籍資料を専門的に扱う部署として、職員 9 名の小さな部屋ですが、古典籍資料室という部屋があります。古典籍資料室では、日本の古典籍資料としては江戸時代（1600～1868 年）以前の和古書、中国の古典籍資料としては清代以前の漢籍を中心に、西洋の古典籍や明治以降の近代資料なども含め、全体で約 30 万冊の古典籍資料等の原本を所蔵しています。

現在デジタル化されているのは、古典籍資料室所蔵資料全体の約四分の一の資料です。デジタル媒体の資料の提供は関西館電子図書館課が所管しています。

古典籍資料室所蔵資料のうち特に貴重な資料は、貴重書（1,258 タイトル）および準貴重書（789 タイトル）に指定されており、これらについては古典籍資料の中でもデジタル化に特に注力してきました。

1. 古典籍資料のインターネット公開状況と公開資料について

当館は、インターネットを通じてどこからでも蔵書を閲覧できる「電子図書館サービス」の実現を目指して、蔵書のデジタル化を実施してきました。デジタル化により、古典籍資料の原本は基本的に保管しつつ、いつでも・どこでも・だれにでも資料を提供する道が開けました。

古典籍関係では、2011 年 11 月現在、2010 年度に大規模に行われたデジタル化事業で作成された古典籍資料を中心に、約 11,000 タイトル、約 50,000 件分のデジタル画像がインターネットで公開されています。江戸時代の和古書を中心に、写本・刊本や記録文書を始めとして錦絵や絵図の類に至るまで、日本の多種多様な資料や、中国のものでは清代以前の漢籍をインターネットで提供しております。

現在は、当館ホームページの「国立国会図書館のデジタル化資料」内の「古典籍資料（貴重書等）」（<http://dl.ndl.go.jp/#classic>）のページでご覧いただけます。もちろん、インターネットで公開されているデジタル画像はご自宅などで自由にダウンロードすることができます。

さて、インターネットで公開されている日本の古典籍資料の具体的な例をご紹介します。例えば、製作年代が明確な世界最古の印刷物といわれる奈良時代（8世紀）の『百万塔陀羅尼』ですとか、江戸時代後期（18～19世紀）の喜多川歌麿の絵本や歌川広重（一世）の錦絵などがあります。さらに、大きなまとまりをもったコレクション的な資料もあります。主題としてまとまったコレクションとしては、「白井文庫」、「伊藤文庫」といった本草関係の資料があり、また、江戸幕府の町奉行所等の記録書類である「旧幕府引継書」といったコレクションがあります。

また、わが国は古来中国や朝鮮から多くの書物を輸入し、その文化を学んできましたが、中国で刊行されたものとしては、伝本が稀な北宋刊本で重要文化財であり、中国古来の姓氏について書かれた『姓解』や宋代の代表的詩人である黄庭堅の詩の注釈書であり、宋末・元初の頃に刊行された『山谷黄先生大全詩註』、さらに、明代の刊本としては、古代から宋代までの諸制度の沿革・変遷を記した『文獻通考』など様々な分野の資料がインターネット公開されています。

2. 提供システムについて

デジタル化された古典籍資料は、関西館に設置されている全館的なデジタルコンテンツの提供システムに収録されています。古典籍資料をはじめ当館で収集・集積しているさまざまなデジタル媒体資料を検索・閲覧することができます。

このシステムによるインターネット公開は、古典籍資料を皮切りに、2011年4月に開始されました。

古典籍資料のデジタル化自体は、すでに1994年に当館と当時の情報処理振興事業協会との共同事業として行われた「電子図書館実証実験プロジェクト」において行われました。このプロジェクトでは、江戸時代の浮世絵や古地図など約7,200枚がデジタル化され、1996年から館内で公開されました。これを引き継ぎ、2000年3月から「貴重書画像データベース」という形で、調査研究に資するとともに、わが国の貴重な歴史的文化財を広く一般に紹介することなどを目的に、古典籍資料のインターネット公開が始まりました。現在と比べると小規模（約1,000タイトル）でしたが、基本的資料として利用が多く、美しく彩色された植物・動物等の図譜などの本草関係資料、資料的・芸術的価値があると思われる絵本・絵巻や錦絵などが公開の中心的な資料でした。なお、「貴重書画像データベース」で公開されていた資料は現在のシステムに引き継がれています。

また、当館ホームページには、「電子展示会」というサイトがあり、「デジタル貴重書展」や「描かれた動物・植物」といったテーマのコンテンツでも、貴重な古典籍資料の一部をご覧いただけます。

以下では、2010年度に大規模に行われたデジタル化事業について、実際の作業の様子などの概況を申し上げます。

3. 古典籍資料のデジタル化作業の概況

2010年度に大規模に行われたデジタル化事業では、古典籍資料室所蔵資料（明治以降の近代資料等を含む）が約73,000冊（このうち貴重書・準貴重書は約20,000冊）デジタル化されました。これは、コマ数に換算すると約530万コマとなります。提供用画像データのフォーマット形式はJPEGで、24ビットフルカラーです。解像度は資料に対して400dpi相当としました。

デジタル化の作業は外部委託により実施しました。外部委託業者によるスキヤニング作業は、2010年7月にスキヤニング個所の確認などの事前調査から始まり、2011年3月に終了しました。作業場は東京本館内に設け、大判の一枚物や巻物のスキヤニング用としてやぐらのような形状の大型のスキヤナ（5台）と冊子スキヤニング用の小型のブックスキヤナタイプ（39台）等の機材が設置されました。スキヤニングにはすべて原本を使い、軽度の破損や虫損個所がある資料についても、基本的に補修は行うことなく、応急処置をしてスキヤニングを行いました。ただ、スキヤニングに際して、資料ののどの部分が見えにくいものもあり、そのような資料については、資料を綴じていた糸を切り解体したのちに撮影したものもあります。解体したものは、今も職員で糸の綴じなおしを行っています。

委託業者との意思疎通を密に行い、作業中の資料の取り扱いには万全を期しました。特に貴重な資料については、職員の立ち会いのもとで資料の状態を確認する作業を行いました。それ以外の資料についても、職員の確認が必要と判断されることは事の大小を問わず質問を受け付け、スキヤニング作業により資料を傷めることなく円滑に作業が進むよう細心の注意を払いました。

なお、大規模デジタル化で電子化した資料のうち一部未提供のものがありますが、これらについても、提供に向けて準備を進めています。

以上、簡単ですが、古典籍資料デジタル化の概況についてご説明をさせていただきました。

終わりに

当館は、所蔵する資料を国民共有の文化遺産として、現在の国民の利用に供することはもとより、将来の国民の利用に供するため、永く保存する使命を帯びています。利用と保存の両立は、当館に課された二律背反的な古くて新しい課題であり、とりわけ古典籍資料にとっても大きな課題です。

デジタル化はこの課題に対する非常に有効な解決法であると思われますので、現在の厳しい財政状況の下ではありますが、今後ともデジタル化を進めることにより、資料の利用と保存の両立を図ることができればと思います。